

国語 第2学年 どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「どんな おはなしかを たしかめて、音読しよう」 教材名「ふきのとう」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ）

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す。この教材では、場面の行動と音読の理由を結ぶメモを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認する。自然の仕組みの正誤より物語の場面では何が起きているかを扱う。想定する難しさは、擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確認する。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全9時間）

第1次 第1時：○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～4時：○人物や自然物の言動を本文から確認、相手との関わりを短いメモにする。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確認する活動）

第3次 第5～8時（本時）：○人物や自然物の言動を本文から確認、相手との関わりを短いメモにする。同じ

箇所を聞や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の様子に合うかを比べる。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第9時：○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（5／9）

（1）本時の目標

場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることができる。（C(1)イ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。

○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」

【めあて】登場するものの行動と場面の様子を確認、音読に表す。

予想される児童の反応：・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」

人物や自然物の言動を本文から確かめ、相手との関わりを短いメモにする。同じ箇所を聞や声の強さを変えて読み、どの読み方が行動の様子に合うかを比べる。

選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。

予想される児童の反応：・前の言葉を聞いて次の動きが起こる。

・同じ大きな声にする必要はない。

指導上の留意点：本文の行動を表す語を示し、だれの言葉かを確認する。自然の仕組みの正誤より物語の場面で何が起きているかを扱う。

想定する難しさ：擬人化された自然物を知識だけで説明し、物語の言動を見ない。

評価では、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えているかを、場面の行動と音読の理由を結ぶメモと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

場面の行動と音読の理由を結ぶメモを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。

予想される児童の反応：・同じ大きな声にする必要はない。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この場面では、それぞれが何をしようとしていますか」。中央は、場面の行動と音読の理由を結ぶメモに必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

